

光ファイバケーブルの取り扱い

光ファイバケーブルにつきましては、以下の点に注意し、運搬、保管、布設を行ってください。
一般的な内容となりますので、詳細につきましては、各製品の仕様書、マニュアル等に従ってください。

運搬

- ▲ **警告** ■トラック等でドラムを運搬する場合には、ドラムが回転しないようにしっかり荷台に固定してください。
- ▲ **注意** ■通常のメタルケーブルと同様に取り扱いことができます。ただし、メタルケーブルに比べて軽量であっても、ドラムをトラックの荷台などから直接地面に落とすような取扱いは厳禁です。ドラム破損など思わぬ事故の原因となることがあります。トラック荷台からの積み下ろしには、ユニックやパワーゲートの使用を推奨します。
 - ケーブルドラムは、立てた状態で輸送してください。(平積厳禁)
 - 回転させてのドラムの移動は、短距離に限定し、長距離ではおこなわないでください。実施する場合には、ドラムに表示してある回転方向に転がしてください。ただし、回転中および回転後に光ファイバケーブルの巻き緩みにより、ケーブルが飛び出したり、巻乱れが発生する可能性がありますので十分注意してください。

保管

- ▲ **警告** ■保管時には、ドラムが転がらないよう歯止めを置く等の処置を必ず行ってください。
- ▲ **注意** ■通常のメタルケーブルと同様に取り扱いことができます。ただし、ケーブルの両端末は、湿気の侵入を防ぐため、ケーブルキャップ等にて保護してください。
 - ケーブルドラムは、立てた状態で保管してください。(平積厳禁)
 - 光ケーブル繰り出し後、一旦、ケーブルをドラムに保管する場合には、巻き緩みが生じないように巻き終わり端を固定してから保管してください。

布設

- ▲ **警告** ■光ケーブルには、光ファイバや鋼線などが入っているので、ケーブルの先端に注意してください。
 - 光ケーブルには、弾性の強い鋼線などが入っている場合がありますので、結束物(紐、テープ等)を解くと、光ケーブルが弾け飛び出すことがありますから注意してください。
 - 光ケーブルやドラムを取り扱う際には、手袋などの保護具を着用し、ケーブル自身、金属片(例えば釘、ステップル)や木片(例えば、ササクレ、バリ)などで怪我をしないよう注意してください。
 - 光ファイバは、ガラス製で非常に細いので、先端が鋭く刺さりやすいため危険です。光ファイバ心線を取り扱う際は、安全メガネなど防具を着用すると同時に、取扱いには十分注意してください。
 - 光ファイバの切断屑は、確実に回収し、適切な方法で廃棄してください。
- ▲ **注意** ■ドラム開梱時には、光ファイバケーブルに外傷を及ぼさないよう注意して作業してください。
 - ドラムのボルトが緩んでいないか確認し、緩んでいる場合は増し締めしてください。
 - ドラム巻きの光ケーブルの場合、ケーブル繰り出しの際には、ドラム側面にある巻き始め口の保護カバーを外し、ケーブル巻き始め端の固定を外してケーブルをフリーの状態にしてから行ってください。(巻き始め端の固定を外さないと、ケーブル巻き始め部でケーブルが座屈することがあります。)
 - 光ケーブルは許容張力が決められています。必ず、その許容張力の範囲内で布設してください。
 - 光ケーブルには許容曲げ半径が決められています。必ず、その許容曲げ範囲内で布設・固定してください。
 - 必要に応じて、光ファイバケーブルの先端にプーリングアイを取り付けてください。
 - ケーブルグリップ(ワイヤネット)を使用する場合は、ケーブル外被だけでなく、テンションメンバ、ケーブルコア全体が引っ張られるような方式、取付方法としてください。
 - 布設時には光ファイバに捻回やキンクが発生しないように、撚り返し金物や捻回防止器などを使用し注意して布設してください。
 - 架空布設でハンガーローラーを使用する際は、その構造上捻回が発生しやすく、特に影響の出やすい長尺布設においては、十分に注意して布設してください。